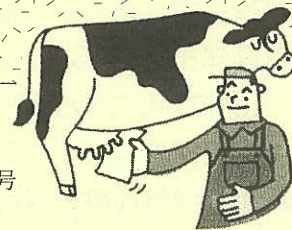


四国生乳販連ニュース

四国四県の生産者と連合会をつなぐコミュニケーション紙



第22号

発行日/平成23年9月28日

発行所/四国生乳販売農業協同組合連合会

〒760-0023 香川県高松市寿町1丁目1番12号

編集・発行人/菊川 時彦

平成22年度決算報告を可決承認(第11回通常総会)

平成23年7月26日、香川県高松市「アルファあなぶきホール大会議室」において第11回通常総会を開催いたしました。山下会長の主催者挨拶の後、ご来賓を代表して、農林水産省中国四国農政局生産経営流通部畜産課・平尾課長様、社団法人中央酪農会議管理課・佐藤課長様よりご祝辞を頂いたほか、四国内の県庁畜産課、全農、全酪連からもご臨席を賜りました。徳島県酪農業協同組合の山下組合長が議長として選任され、議案の審議に入りました。

第1号議案「平成22年度事業報告及び剰余金処分案承認の件」(事業報告の概略・決算書は、次ページのとおり)、付帯決議案について、原案どおり可決承認されました。

山下会長挨拶要旨

東日本大震災の被災者の方々、酪友にまずもお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復旧・復興がされることを祈念したい。

また、震災に関連する乳代補てん生産基盤維持事業への拠出に対して、会員の皆様に特段のご理解とご協力を賜ったことに、心より感謝を申し上げます。

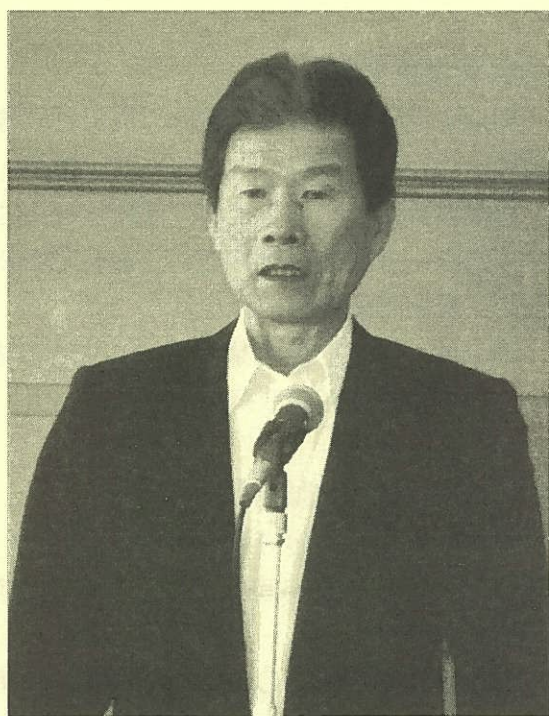
1年間を振り返ると口蹄疫に始まり、TPP問題や3月11日の東日本大震災と、酪農業界にとっても非常に多難な年であった。生産基盤の弱体化も深刻な状況になっている。

四国の生乳生産量は毎年減少し、乳業メーカーに安定販売する十分な乳量の確保が難しくなっている。

また、穀物市場では生産と需給のバランスが崩れ、飼料価格が高位で推移している。

四国販連では、会員団体の皆様のご協力の下、全国に先立ち、乳価・集送乳経費の完全プール化を21年度からスタートした。販売に特化した組織である以上、安全・安心な生乳を取引先に安定供給できるかどうかが重要だ。これが有利販売にもつながる。

引き続き、皆様のお知恵を拝借しながら、組織の強化に取り組みたい。



平成23年度事業報告の概要

○生乳共販事業

生乳販売量は139,734トン、取扱計画比97.4%、前年比96.4%。用途別販売の動向は、飲用向け（学乳向け含む）・前年比97.8%、はち酵乳等向け・95.2%（飲用向けとはち酵乳等向けの合計量では前年比97.5%）。特定乳製品向け（加工向け）は8,839トン・80.8%、加工比率は、昨年度の7.5%に対して6.3%と減少。その他、生クリーム向け・前年比114.0%、チーズ向け・104.2%。

生乳販売高は、148億1,353万円、計画比97.6%、前年比96.1%、これに対する1kg当り販売単価（成分加算金含む）は106円01銭3厘。

○乳価・集送乳経費の平準化、需給調整・有利販売対策

21年度より開始した、広域生乳需給調整拠点（CS）を活用した需給調整・飲用化促進を継続して実施し、需給調整実施量は7,117トン（前年比144.6%、全受託乳量の5.1%）。

22年度の四国の平準化単価は104円71銭/kg（成分加算金除く）、21年度と比較し16銭/kgの低下で、概ね前年並みの水準を確保。

四国全体の集送乳経費の実績は8億2,301万円、受託乳量当たり5円89銭/kgで約6銭/kgの上昇。この要因は、①1車当たりの運賃設定の地域での生産量減少に伴う単価の上昇、②広域需給調整実施による送乳運賃の上昇、など。

○生乳計画生産対策

四国の目標数量は中央からの配分を受けた、142,019トン・前年実績比98.0%の設定とし、空枠の発生を極力防止するため、会員別には過去の生産動向も考慮した配分を実施。

しかし、記録的猛暑や口蹄疫国内発生等の影響等で生産が大幅に減少し、実績は139,585トン・前年比96.3%と、目標数量に対して2,400トンの未達。

○生乳検査業務

平成22年度の検査料金は、従来と同様、配分検査26銭/kg、牛群検定95円/検体、依頼検査95円/検体（成分・体細胞）、200円/検体（細菌）で実施。

総検体数は194千検体、検査料収入は約5,288万円（計画比96.8%）。

検査データの有効活用と、生乳品質確保の目的から、四国地域乳質改善共励会を実施し、優良生産者の表彰・賞金贈呈等を行った。

その他、日本酪農乳業協会の「生乳検査精度管理認証制度」に、生乳検査・検体採取両部門で申請を行い、いち早く認証を取得した。

○牛乳消費拡大地域活動

国産牛乳消費喚起対策事業「MILK JAPAN」に、中央と連携して取り組んだ。また、四国域内での広い範囲での活動普及を図るため、地域活動費の一部を会員団体に助成し、一体となってイベント等の事業を展開。

四国販連では、10月10日の全国一斉のキックオフイベントに合わせ、徳島牛乳まつりとの共催によりMILK JAPAN LAND IN 徳島を開催し、当日来場した1万5千人に、MILK JAPAN活動と牛乳の効能、酪農教育ファーム活動等をPRした。

○補助事業の事務の実施

加工原料乳生産者補給金の交付事務、加工原料乳生産者経営安定対策事業、生乳需要創出緊急対策支援事業等、国産チーズ供給拡大・高付加価値化対策事業、資源循環型酪農推進事業、国産牛乳乳製品需要喚起活動推進事業の6つの事業を実施し、会員・農協を通じて、生産者に助成金等を交付。

○その他実施事項

①域内乳業工場の撤退に伴う集送乳実施協議、②乳質改善と需要期生産に向けた検討、③口蹄疫被災農家に対する支援（見舞金の贈呈）、④理事・販売委員研修会の実施、など。

～貸借対照表～

平成23年3月31日現在

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|----------|-------------|----------|-------------|
| I 流動資産 | 1,612,663 | I 流動負債 | 1,507,348 |
| (預金) | (150,346) | (未払金等) | (1,501,565) |
| (未収金等) | (1,478,054) | (法人税等) | (4,383) |
| (貸倒引当金) | (△15,738) | (未払消費税) | (1,400) |
| II 固定資産 | 8,049 | II 固定負債 | 14,257 |
| (有形固定資産) | (7,258) | III 引当金 | 1,061 |
| (無形固定資産) | (791) | 負債の部合計 | 1,522,666 |
| III 外部出資 | 3,020 | IV 資本 | 101,066 |
| IV 繰延資産 | 0 | 資本の部合計 | 101,066 |
| 資産の部合計 | 1,623,732 | 負債及び資本合計 | 1,623,732 |

～損益計算書～

平成21年4月1日～平成22年3月31日まで

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 |
|-----------|--------------|
| I 事業総利益 | 48,755 |
| (事業収益) | (14,866,409) |
| (事業費用) | (14,817,653) |
| 事業総利益 | 48,755 |
| II 事業管理費 | 54,770 |
| 事業損失 | 6,015 |
| III 事業外収益 | 284,757 |
| IV 事業外費用 | 274,005 |
| 経常利益 | 4,737 |
| V 特別利益 | 2,334 |
| VI 特別損失 | 1,995 |
| 税引前当期利益 | 5,075 |
| 法人税等 | 4,383 |
| 当期剰余金 | 692 |
| 繰越剰余金 | 374 |
| 当期末処分剰余金 | 1,066 |

平成22年度乳質改善共励会の表彰式を開催

日頃より、良質乳の生産にご尽力いただき、ありがとうございます。

平成22年度四国地域乳質改善共励会の表彰生産者は、下記のとおり決定いたしました。

なお、平成23年7月12日に高松市のホテルニューフロンティアで表彰式を開催し、入賞者の方々に本会会長・副会長より、感謝を申し上げ、褒賞を授与致しました。

以下に概要を紹介いたします。

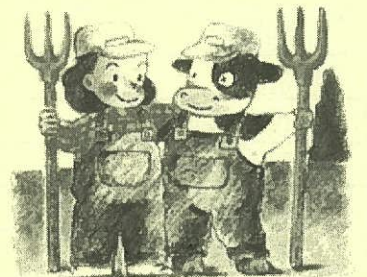
1 平成22年度四国地域乳質改善共励会入賞者

最優秀賞

香川県 磯野保弘様 大山由仁様 村上芳弘様
高知県 伊藤和恵様 小松俊一様

優秀賞

徳島県 上原晴行様 大松修二様
香川県 川田彰一様 白川政幸様 永崎博之様
古川和毅様 三井利広様
愛媛県 岩田忠義様
高知県 川村一久様 高橋強様



※徳島県の上原様・大松様、香川県の大山様・村上様・白川様・永崎様・三井様、愛媛県の岩田様、高知県の小松様は、2年連続の入賞です

22年度配点表

| 項目 | 基準 | 得点 |
|---------|-----------------------|----|
| 細菌数 | $n \leq 1$ 万 | 10 |
| | $1万 < n \leq 3$ 万 | 8 |
| | $3万 < n \leq 5$ 万 | 6 |
| | $5万 < n \leq 7$ 万 | 4 |
| | $7万 < n \leq 9$ 万 | 2 |
| | $10万 \leq n$ | 0 |
| 体細胞数 | $n \leq 100$ 千 | 10 |
| | $100千 < n \leq 150$ 千 | 8 |
| | $150千 < n \leq 200$ 千 | 6 |
| | $200千 < n \leq 250$ 千 | 4 |
| | $250千 < n \leq 300$ 千 | 2 |
| | $300千 < n$ | 0 |
| 脂肪率 | 3.8%以上 | 4 |
| | 3.7%~3.79% | |
| | 3.6%~3.69% | |
| | 3.59%以下 | 0 |
| 無脂乳固形分率 | 8.80%以上 | 4 |
| | 8.70%~8.79% | |
| | 8.60%~8.69% | |
| | 8.59%以下 | 0 |

* 審査方法 *

1 採点方法

- (1) 年度(4月~3月)を通じて生乳を出荷した生産者のバルク乳の、4月1日~3月31日までの12ヶ月間の検査成績で採点。
- (2) 年間の生乳検査成績36回に基づき、配点表による得点により審査。(細菌数は12回の得点に3を乗じたもの)。

2 選定の方法

- 規模階層別に、①250トン以下、②250トン~500トン、③500トン以上、毎に規模別の区分を行ない、それぞれ上位5名(計15名)を受賞者とする。なお、最優秀賞、優秀賞は15名のうち得点上位の5名。

3 審査の対象外となる場合

- (1) 期間中に不合格(脂肪分3.5%以下、無脂乳固形分8.3%以下)の生乳があった生産者は採点の対象外とする。
- (2) 販売不可能乳、抗生物質の混入による廃棄乳等の発生についての報告が会員からあった生産者。
- (3) 生乳生産管理チェックシート記帳に係る不備がある旨の報告が会員からあった生産者。

4 褒賞

- 最優秀賞(5名):賞金10万円、盾、賞状
優秀賞(10名):賞金5万円、盾、賞状

2 表彰式の概要

受賞者15名中10名の方が、四国4県よりご参加頂きました。その他、香川県畜産協会牛乳検査部、会員団体事務局、本会会長・副会長・常務等が出席。

冒頭の主催者挨拶で、本会山下会長より、「四国の中でトップクラスの成績を収めている皆様には、四国全体の乳質の底上げにつながるよう、牽引していただきたい」とお願いをし、併せて受賞者のご努力を称え、感謝の意を表しました。

表彰式では、全体の結果報告を行うとともに、受賞者の皆様それぞれに、本会会長・副会長より、賞金・褒賞品を授与いたしました。

また、講師として稲葉武洋氏（株酪農経済通信社編集部長代理）をお招きし、最近の酪農情勢についての講演を開催しました。①東日本大震災が酪農乳業に与えた影響、②福島第一原発事故の生乳生産・消費への影響、③国内生乳生産と生乳需給の現状、④全国の酪農情勢の展望（政策的課題、復興と国際交渉の行方、懸念される生乳不足など）等のテーマでお話いただきました。被災地や原発事故避難区域が置かれている状況の話は、現場での取材を通じた、大変臨場感のある内容でした。

講演を通し、酪農の抱える様々な問題点を、広い視点から理解することができたと感じます。

出席者からは、①万が一四国内の原発で事故があった場合の経営リスクと対応方法をどう考えるべきか、②農家戸別所得補償は酪農分野ではどのような状況にあるのか、③TPPへの協議参加はどのような背景で表明されたのか、④配合飼料や燃料の価格はどのように推移すると見込まれるか、等の質問があり、活発な意見交換が行われました。



講師：(株)酪農経済通信社 稲葉氏

平成22年度 四国地域乳質改善共励会表彰式



受賞者の皆様と本会会長・副会長

生乳の安全安心確保対策 ～100%の記帳を～

日頃より、良質乳の生産にご尽力いただき、ありがとうございます。

平成23年度におきまして、以下の項目を重点として、安全安心の確保に取り組むこととしております。会員団体・農協、酪農家の皆様、改めてご協力をよろしくお願い申し上げます。

1 生乳処理室（バルク室）の衛生管理と施錠

バルク室は大切な生乳を安全に保管するうえで、大変重要な場所です。

- ① 動物用医薬品・消毒剤等を室内に置かない
- ② 常に清潔にする（犬や猫は絶対に入れない）
- ③ 施錠できる環境を整え、関係者以外が立ち入れないようにする

2 確実な記帳・記録と保管

生乳生産管理チェックシートの記入項目は、ノートやパソコンなどの記録や、伝票などの控えなどで、項目が代替できる場合は、チェックシートに転記する必要はありません。ただし、すぐに提示できるよう整理し、10年間は確実に保管してください。

3 抗菌性物質の残留確認検査を必ず受ける

獣医師から指示を受けた休薬期間明けには、必ず残留確認検査を受け、合格したものを出荷してください。また、検査の結果は必ず記録しましょう。

4 殺菌・消毒剤は安全なものを使用する

※記帳・記録によるチェックは、①作業を確認しミスを防ぐ、②安全を証明し自分の身を守る、ためのものです。毎日、確実に行ってください。

●搾乳に使用する殺菌剤の適正使用について

一昨年度に、他県において生乳中に消毒剤の薬剤成分が検出されたため、安全が確認されるまでの間、生乳の出荷を自粛し、廃棄するという事態が発生致しました。

引き続き細心のご注意を頂きたく、搾乳用殺菌剤の使用に当たっての注意点のパンフレットを、次ページに掲載します。



殺菌・消毒剤に関するパンフレット（重要な事柄ですので、必ずお読み下さい。）

殺菌・消毒剤が
生乳に混ざると
数十億円の
損害が
生じる可能性

『塩化ジデシルジメチルアンモニウム(DDAC)』及び『(モノ・ビス(塩化トリメチルアンモニウムメチレン))-アルキル(C9-15)トルエン』を含む殺菌・消毒剤

この成分の代表的な商品は、
裏面をご覧ください

定期的検査で「モノ・ビス」が 検査対象に追加

〔モノ・ビス(塩化トリメチルアンモニウムメチレン))-アルキル(C9-15)トルエンが定期的検査で対象となります！

酪農業界では、生乳中への農薬等の基準値を超えた残留がないことを証明するため、毎年度、定期的検査を実施していますが、今年度は、〔モノ・ビス(塩化トリメチルアンモニウムメチレン))-アルキル(C9-15)トルエンの成分が追加され、検査されることになりました。



殺菌・消毒剤が生乳に混ざると数十億円の損害が生じる可能性

もし、誤使用により、生乳中に成分が混入し、牛乳乳製品の製品回収となった場合は、使用した酪農家の責任で、膨大な損害を被ることになります。



過去2度も定期的検査において殺菌剤の誤使用によりDDACが検出

平成19、21年度の定期的検査で基準値を超える塩化ジデシルジメチルアンモニウム(DDAC)が検出され、大量の生乳廃棄に繋がりました。いずれもDDACを含む殺菌・消毒剤の誤使用によるものでした。

また、細菌数や乳房炎を気にかけるあまり、殺菌・消毒剤の濃度が高いほど、殺菌力が増すと勘違いして使用しているケースもありました。

DDAC等を含む 殺菌・消毒剤を

- 1 搾乳直前の乳房・乳頭の清拭
- 2 搾乳器具の消毒後、不十分な水洗い
- 3 濾過布など用法に定められていないものの消毒

など不適正な

使用禁止

使用に当たっては、必ず使用説明書を読み、用法・用量を遵守し、適正に使用しましょう！
 ※不明な点は、販売店・製薬会社にお問合せ下さい。

※DDAC等とは、塩化ジデシルジメチルアンモニウム及び
 [モノ・ビス(塩化トリメチルアンモニウムメチレン)]-アルキル(C9-15)トルエン

DDAC等を含む代表的な殺菌・消毒剤の一覧

| | 商品名 | 製造販売業者 | 販売元 | | 商品名 | 製造販売業者 | 販売元 |
|----|------------|---------|-------------------------|-----|-----------|---------|--------|
| 1 | アストップ | 科学飼料研究所 | 明治製菓 | 11 | パンパックス200 | フジタ製菓 | |
| 2 | アストップ200 | | | 12 | ベストシール | 日本全業工業 | |
| 3 | クリアキル-100 | 田村製菓 | ベーリンガーインゲルハイムベトメディカジャパン | 13 | モルホナイド10 | サンケミファ | コーキン化学 |
| 4 | クリアキル-200 | | | 14 | モルホナイド20 | | |
| 5 | クリアキル・ドライ | | | 15 | ロンテクト | 科学飼料研究所 | |
| 6 | クリンエール | 共立製菓 | | 16 | サニスカット | | |
| 7 | クリンエール・200 | | 17 | パコマ | | | |
| 8 | クリンジャーム | 大阪製菓 | 上野製菓 | 18 | パコマ200 | 科学飼料研究所 | 明治製菓 |
| 9 | デスマック | ヤシマ産業 | ロック化学製品 | 19 | パコマL | | |
| 10 | パンパックス100 | フジタ製菓 | | | | | |

※商品番号1～14は、塩化ジデシルジメチルアンモニウムを含む殺菌・消毒剤

※商品番号15～19は、[モノ・ビス(塩化トリメチルアンモニウムメチレン)]-アルキル(C9-15)トルエンを含む殺菌・消毒剤

※上記殺菌・消毒剤は、(社)日本動物用医薬品協会が発行している「動物用医薬品医療機器要覧2010年版」に記載しているものから抽出しています。

※ヤシマ産業は、平成23年4月1日より住化ライフテックに統合。

※明治製菓は、平成23年4月1日よりMeiji Seika ファルマに商号変更。

乳価平準化単価の動向と集送乳経費の平準化実績

1 年度別の乳価平準化単価の推移

(1)平成22年度の実績

平成21年度より、月々の乳代の精算・支払は、四国全体の平準化単価によって実施しています。

平成22年度の累計の平準化単価は、年間平均で104円71銭/kgで、21年度と比較して16銭の低下で、概ね前年と同水準となりました。

| | 単価 (円/kg) |
|--------|-----------|
| 平成21年度 | 104.87 |
| 平成22年度 | 104.71 |
| 単価差 | -0.16 |

※成分加算金を除いた単価

(2)平成23年8月までの動向

平成23年度の平準化支払い単価は、8月までの累計で、106円59銭/kgの実績で、前年同期と比べて1円42銭の上昇です

| | 単価 (円/kg) |
|----------------|-----------|
| 前年同期(22年4~8月) | 105.17 |
| 平成23年度(4~8月まで) | 106.59 |
| 単価差 | +1.42 |

※成分加算金を除いた単価

2 集送乳経費の平準化単価の実績

平成22年度の四国全体の集送乳経費は、1kg当たり5円89銭/kgとなり、21年度と比較すると6銭の上昇です。

内訳では、集乳経費が3.63円/kgで7銭/kgの上昇、送乳経費が1.75円/kgで10銭の上昇となった一方、CS経費及び広域需給調整拠点経費は0.51円/kgで、計11銭/kgの低下となっています。

なお、平成23年度の集送乳経費の平準化は、23年度の経費実績に基づき、上半期と下半期の2回実施する予定です。

| 平成22年度 | 金額 (千円) | 1kg単価 (円) | 21年度との 単価差 (円) |
|-------------|------------|--------------|-------------------|
| 集乳経費 | 506,613 | 3.63 | +0.07 |
| 送乳経費 | 244,290 | 1.75 | +0.10 |
| CS経費(試薬代含む) | 45,637 | 0.32 | -0.03 |
| 広域需給調整拠点経費 | 26,473 | 0.19 | -0.08 |
| 合計 | 823,013 | 5.89 | +0.06 |

東日本大震災の被災酪農家への支援の結果

東日本大震災で被害を受けた酪農家の方々の支援のため、中央酪農会議での決定事項、本会理事会での協議を踏まえ、支援金の拠出などの協力を6月の段階でお願いいたしました。

会員団体を通じ、乳代補てん生産基盤維持事業の拠出金としてご支援いただいた金額は、徳島県5,320千円、香川県4,920千円、愛媛県5,760千円、高知県3,500千円で、四国全体では19,500千円です。4県とも、目標額通りのご支援をいただきました。

その他、本会の常勤役職員より、169千円を義援金としてお贈りいたしました。

全国段階での酪農家の支援金は、4億9,963万9,783円（中央酪農会議での牛乳消費喚起対策を活用した販売支援対策を含む）で、一般の方々や酪農関係団体の役職員からの義援金は2,249万59円となっています。

支援金・義援金は、中央酪農会議を通じて、震災による生乳廃棄などの被害状況に応じ、東北生乳販連に3億9,506万9,482円、関東生乳販連に1億2,706万360円、総額5億2,212万9,842円が、8月中旬に贈られています。

～生産者の皆様、会員団体の皆様方の暖かい格別のご協力を賜りましたことを、厚く御礼申し上げます。
誠に有難うございました～

生乳受託販売委員会の委員の変更

高知県酪農連合協議会の役員体制の変更に伴い、本会の生乳受託販売委員会の高知県選出の委員が変更となりました。山本澄雄委員が退任され、新たに横畠増吉委員が就任されましたので報告いたします。

生乳受託販売委員会委員名簿

| 区 分 | 氏 名 | 団 体 名 |
|--------|---------|-------------------|
| 会 長 | 山下 信 良 | 四国生乳販連 代表理事会長 |
| 連合会の理事 | 柳 瀬 一 範 | 四国生乳販連 副会長理事 |
| 連合会の理事 | 合 田 政 光 | 四国生乳販連 理事 |
| 連合会の理事 | 田 窪 雅 史 | 四国生乳販連 理事 |
| 徳島県の区域 | 橋 本 勝 | 徳島県酪農協 理事 |
| 〃 | 高 瀬 敏 | 徳島県酪農協 理事 |
| 〃 | 正 木 孝 則 | 徳島県酪農協 理事 |
| 香川県の区域 | 秋 山 博 文 | 香川県農協受託販売推進協議会 議長 |
| 〃 | 佐々木 英 樹 | 香川県農協受託販売推進協議会 委員 |
| 〃 | 赤 松 省 一 | 香川県農協受託販売推進協議会 委員 |
| 愛媛県の区域 | 山 田 博 文 | 愛媛県酪連 副会長理事 |
| 〃 | 三津田 健 | 愛媛県酪農経営者協議会 会長 |
| 〃 | 永 市 正 明 | 愛媛県酪農経営者協議会 副会長 |
| 高知県の区域 | 岡 本 泰 明 | 高知県酪農連合協議会 会長 |
| 〃 | 宮 本 文 弘 | 高知県酪農連合協議会 副会長 |
| 〃 ※ | 横 畠 増 吉 | 高知県酪農連合協議会 副会長 |

平成23年度の生乳需給をめぐる情勢（8月まで）

1. 平成23年度8月までの受託販売実績（生乳生産）の動向

（1）全国

- 23年度の全国の計画生産は、22年度の実績対比で102.22%(7,496千t)の増産型。
- これに対して、8月までの累計の生産動向（受託乳量）は、北海道千1,601千トン（前年比98.0%）、都府県1,441千トン（同93.2%）、全国3,041千トン（同95.7%）と低調。
- ①分娩時期のずれ、②昨年度の猛暑の牛体への影響、③全国的な個体乳量の低下、④震災の影響（東北・関東地区）、⑤先行き不安等による拡大の見送り、等が要因として考えられる。

（2）四国

- 8月末までの累計で、57,042トン（前年比95.3%）。
- 県別では、徳島15,613トン(同94.3%)、香川14,547トン(同97.8%)、愛媛16,776トン（同94.1%）、高知10,106トン（同95.5%）。
- 8月単月では、四国全体で10,411トン・前年比95.2%。なお、9月の実績はまだ確定していないが、昨年度が猛暑で減少した反動から、前年対比ではこれまでより上昇すると見込まれる。

全国・北海道・都府県と四国の受託販売実績

（単位：ト、%）

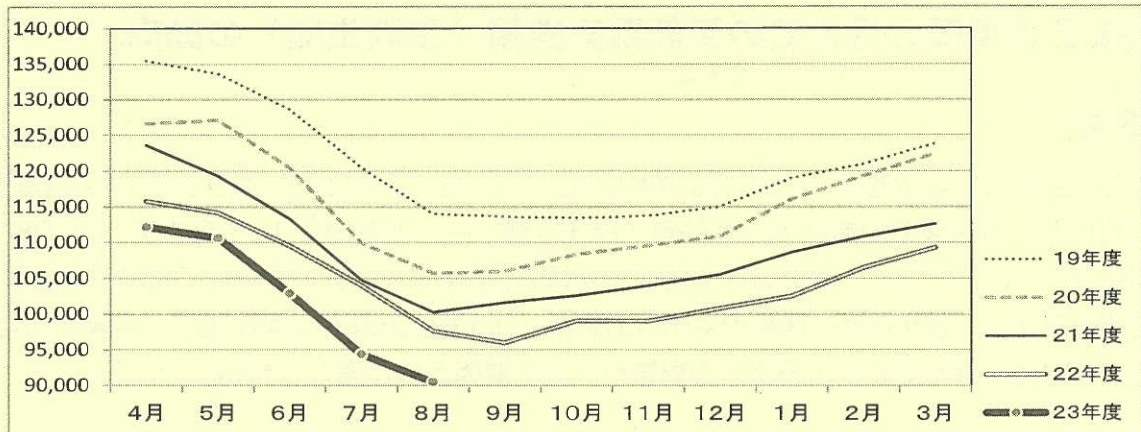
| 会員団体 | 4月 | | 5月 | | 6月 | | 7月 | | 8月 | | 累計 | |
|------|---------|-------|---------|-------|---------|------|---------|------|---------|------|-----------|------|
| | | 前年比 | | 前年比 | | 前年比 | | 前年比 | | 前年比 | | 前年比 |
| 北海道 | 314,714 | 99.5 | 327,508 | 98.1 | 319,403 | 96.4 | 321,234 | 96.8 | 317,831 | 99.0 | 1,600,690 | 98.0 |
| 都府県 | 291,171 | 90.8 | 310,565 | 94.8 | 286,548 | 92.9 | 278,628 | 92.2 | 273,796 | 95.7 | 1,440,708 | 93.2 |
| 全国 | 605,885 | 95.2 | 638,073 | 96.4 | 605,951 | 94.7 | 599,862 | 94.6 | 591,627 | 97.4 | 3,041,398 | 95.7 |
| 四国 | 12,264 | 97.2 | 12,452 | 97.2 | 11,265 | 94.8 | 10,696 | 92.0 | 10,411 | 95.2 | 57,042 | 95.3 |
| 徳島県 | 3,365 | 96.9 | 3,430 | 96.9 | 3,087 | 93.9 | 2,926 | 90.8 | 2,805 | 92.7 | 15,613 | 94.3 |
| 香川県 | 3,130 | 101.9 | 3,223 | 102.4 | 2,898 | 97.2 | 2,716 | 92.9 | 2,593 | 93.9 | 14,547 | 97.8 |
| 愛媛県 | 3,576 | 94.1 | 3,605 | 94.1 | 3,286 | 93.0 | 3,183 | 92.7 | 3,126 | 96.9 | 16,776 | 94.1 |
| 高知県 | 2,193 | 96.4 | 2,194 | 95.7 | 1,994 | 95.8 | 1,871 | 91.6 | 1,887 | 97.9 | 10,106 | 95.5 |

※四捨五入の関係上、合計値が一致していないことがあります。

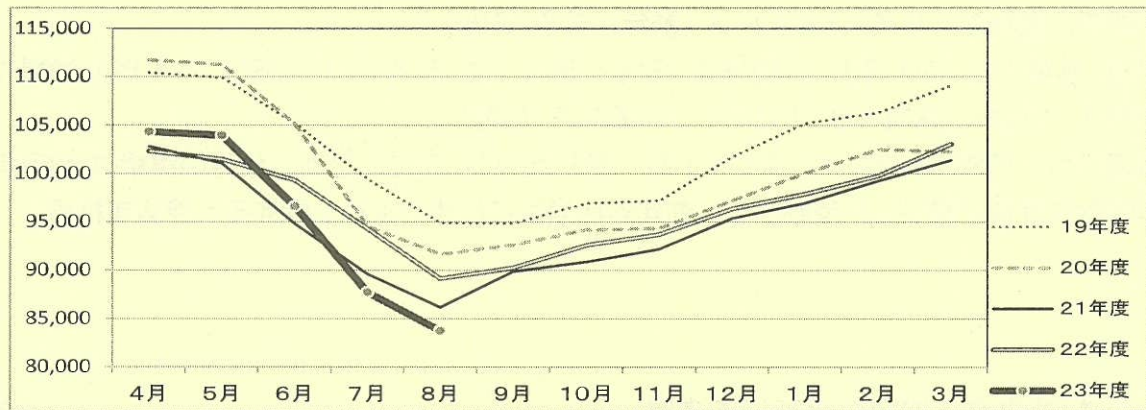
※四国の実績につきましては、公共分乳量が含まれていません。

(3) 四国4県の月別受託乳量の動向(日均量のグラフ、単位:kg)

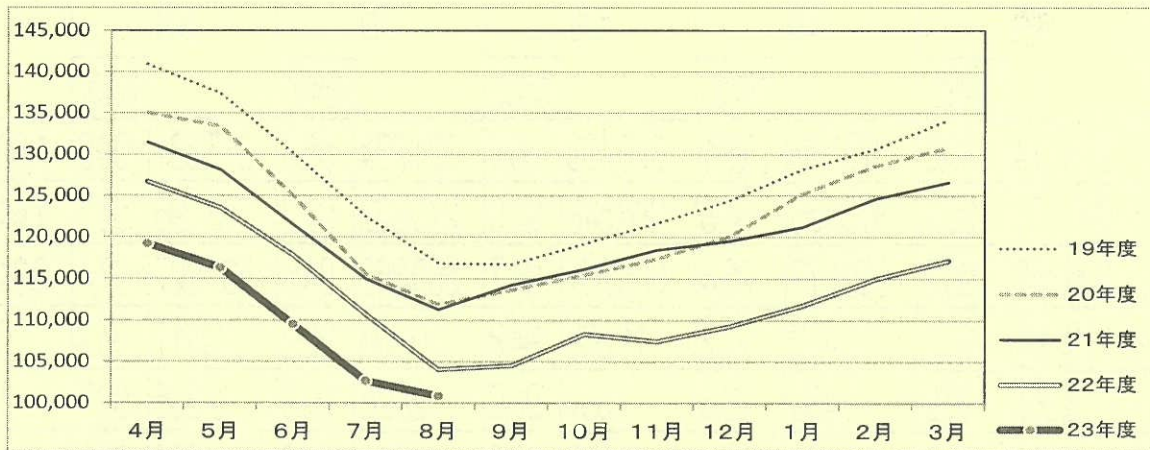
1) 徳島



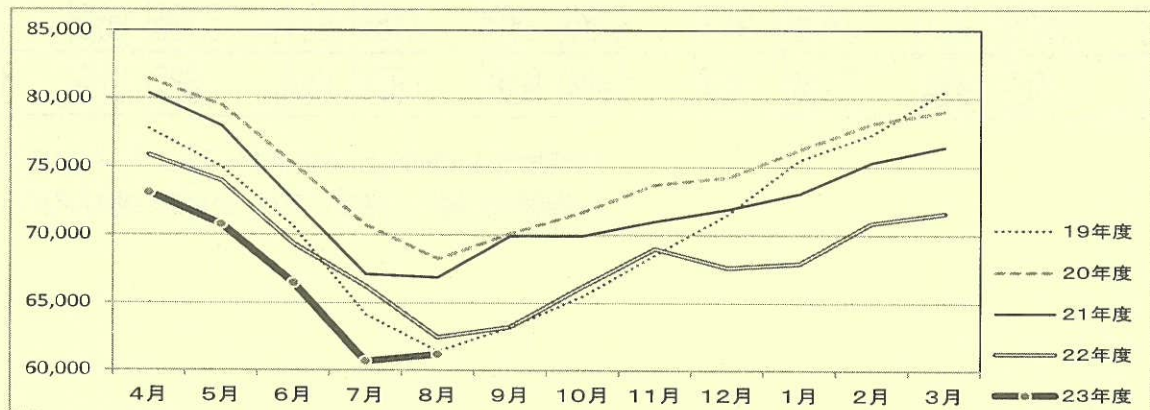
2) 香川



3) 愛媛



4) 高知



2. 牛乳・乳製品等の消費動向と、四国の用途別販売実績の動向

(1) 全国の牛乳・乳製品の需給動向

- 牛乳の消費は、震災前まで長期にわたって低調。
- 4月の牛乳消費は、①震災直後の牛乳不足の反動、②計画停電対応のための工場での製造アイテムの絞り込み（牛乳中心の製造・供給）、等の影響で2年10カ月振りに増加。
- しかし6月以降は、生乳生産が大幅に減少し、必要量の供給が不可能となり、小売り段階への販売制限等が行われた。
- 震災による牛乳需要増は解消されたが、8月時点でも生乳は不足気味であり、学校給食が再開する9月の最需要期に、都府県で大幅な生乳不足が生じないかが、懸念された。しかし、9月は生乳生産が予想より回復したことや、北海道からの生乳移出、台風の影響での消費減等で、大きな混乱は生じていない。
- 現状の傾向が続けば、年度末の乳製品在庫量は、脱脂粉乳が4.0カ月分、バターが2.5カ月分と大幅に減少する見込み。こうしたことから、2千トンのバター緊急輸入が実施されたところ。

(2) 四国の用途別生乳販売の動向

- 8月までの累計で、飲用向けが49,657トン(前年比102.8%)、はっ酵乳等5,107トン(前年比76.7%)、特定乳製品向け(加工向け)が1,790トン(前年比41.5%)。
- 用途別比率は、飲用等向け(飲用向け+はっ酵乳等向け)が95.8%、特定乳製品向け(加工向け)3.1%。
- 生乳生産の減少と、第1四半期は震災の影響等により、加工向け数量が大きく減少している。

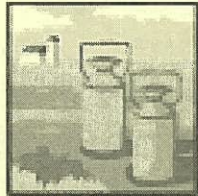

四国の用途別生乳販売の動向

(単位：ト、%)

| 用途 | 4月 | | 5月 | | 6月 | | 7月 | | 8月 | | 累計 | | 用途別比率 |
|-----------|--------|------|--------|-------|--------|------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|
| | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | | |
| 飲用向け | 10,388 | 109 | 10,633 | 104.0 | 10,139 | 101 | 9,475 | 97.3 | 9,002 | 98.6 | 49,657 | 102.8 | 86.9 |
| (うち学乳向け) | 934 | 92.8 | 1,250 | 103 | 1,506 | 100 | 788 | 92.6 | 14 | 98.0 | 4,492 | 78.0 | 7.9 |
| はっ酵乳等向け | 1,241 | 89.9 | 1,057 | 70.8 | 936 | 71.1 | 973 | 75.1 | 919 | 72.8 | 5,107 | 76.7 | 8.9 |
| 特定乳製品向け | 523 | 32.9 | 646 | 67.2 | 79 | 20.7 | 158 | 34.6 | 384 | 92.1 | 1,790 | 41.5 | 3.1 |
| (うち委託加工) | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | - |
| 生クリーム向け | 91 | 68.9 | 93 | 82.5 | 87 | 88.5 | 84 | 67.8 | 99 | 75.6 | 455 | 76.0 | 0.8 |
| チーズ向け | 5 | 144 | 6 | 78.4 | 10 | 94.4 | 6 | 72.6 | 7 | 170.4 | 34 | 90.4 | 0.1 |
| その他向け(公共) | 15 | 96.8 | 17 | 110 | 14 | 107 | 12,422 | 100.0 | 12 | 126.8 | 69 | 103.6 | 0.1 |
| 総受託乳量 | 12,263 | 97.2 | 12,452 | 97.2 | 11,265 | 94.8 | 10,708 | 92.0 | 10,423 | 95.2 | 57,112 | 95.4 | 100.0 |



四国生乳販連・行事だより

| 開催月日 | 会議名 場 所 | 協議内容・報告事項 |
|-------|---|--|
| 4月24日 | 第1回理事会 サポートホール高松5階会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度乳価並びに集送乳経費の平準化内容と四国の広域生乳需給調整の結果報告の件 ・平成23年度取引乳価の件 ・東日本大震災に係る対応の件 ・森永乳業徳島工場閉鎖に係る対応の件 ・中央酪農会議等全国団体の役員・委員等の推薦の件 ・加工原料乳生産者経営安定対策事業業務方法書例の一部改正並びに当事業に係る拠出金単価の件 ・第11回通常総会の開催並びに付議事項の件 |
| |  | |
| 6月7日 | 監事監査 四国生乳販連2階会議室 | ・平成22年度決算監査 |
| 6月9日 | 四国管内の牛乳普及事業推進に係る検討会 サポートホール高松5階会議室 | ・牛乳普及事業の22年度実績と23年度の計画について ・今後の事業展開について |
| 6月12日 | 第2回理事会 サポートホール高松5階会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度事業報告及び剰余金処分案の件 ・平成22年度決算監査報告の件 ・平成23年度取引乳価の件 ・森永乳業徳島工場閉鎖に係る対応の件 ・東日本大震災に係る乳代補てん生産基盤維持事業実施の件 ・平成22年度四国地域乳質改善共励会結果報告の件 |
| 6月15日 | 第8回生乳の安全安心の確保のための四国地域協議会 サポートホール高松5階会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度の取組報告について ・平成23年度の取り組み内容について |
| 7月7日 | 第7回四国地域酪農教育ファーム推進委員会 ニューフロンティア | <ul style="list-style-type: none"> ・酪農教育ファーム活動概要について ・教育ファーム活動報告、活動計画について ・酪農教育ファームの認証制度について ・口蹄疫、東日本大震災以降の教育ファーム活動について |
| 7月12日 | 平成22年度四国地域乳質改善共励会表彰式 ニューフロンティア | <ul style="list-style-type: none"> ・開催趣旨説明・審査結果報告 ・受賞者表彰式・講演 |
| | |  |
| 7月16日 | 第44回生乳受託販売委員会 サポートホール高松5階会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ・四国の乳価、集送乳経費平準化と生乳生産の動向の件 ・平成23年度取引乳価の件 ・森永乳業徳島工場閉鎖に係る経過報告等の件 ・平成22年度四国地域乳質改善共励会の結果報告 |
| 7月26日 | 第11回通常総会 アルファあなぶきホール大会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1号議案 平成22年度事業報告及び剰余金処分案承認の件 ・附帯決議案 |